

## 東日本大震災－新潟県医師会医療支援の記録

日本医師会代議員

渡 辺 雅 晴

JAMTはおろか被災地にも足を踏み入れていない小生がとやかく言うのもおこがましいですが、上越医師会の現状を少し述べます。

医師会では中越、中越沖地震の後 上越医師会「大規模災害対応マニュアル」(平成 20 年 11 月)を作成した。本マニュアルは地震災害のみならず大規模災害(大雨洪水、土砂崩れ、爆発事故等)全般にわたり対応出来る。説明会開催後、出動備品(ベスト、帽子、トリアージタグ)在中のバッグとともに会員に配布。内容は「具体的な対応、組織、通信手段、会員の被害状況確認書、関係機関連絡先 等々」更には管内広範囲にわたる応急救護所・担当医師一覧まで掲載した本格的なものである。

しかし配布から3年近く経過、既に会員の手元から散逸していると危惧される。現在までマニュアルに則った訓練は実施されていない、上越災害

時医療訓練もごく一部の参加しかない。これでは何のために作成したのか? 危機管理意識が感じられず役員として反省している。会員数に比べ積極的 JAMT 参加者は少なく、義援金も少なかったと思う。もちろん診療を顧みず現地に馳せ参じた会員もいたが孤軍奮闘の感は否めなかった。

今回の災害対応を検証し的確、迅速に対応出来るよう、マニュアルの早急な見直し、改訂が是非とも必要である。それ以上に共助、自助の精神を涵養すべき各自の努力が望まれる。当市はご存じのとおり日本一過疎の市、沿岸部から妙高市を含めた内陸部まで広大な地域をカバーする事は至難の業である。しかし今後襲って来ると考えられる災害に対し、備えをする事は喫緊の課題である。平成 23 年末に開催される上越医師会臨床懇話会のテーマが、会員の希望で「災害医療について」(仮題)に決定した事はせめてもの幸いである。